

持子の保育と自然体験 その②

園長 原田健次

前回のおたよりでお知らせした「自然体験(園外保育)」に行ってきました。

週間天気予報では雨になったり曇りになったり、保育室には大きなたてる坊主が 2 つ、子どもたちの願いを背負って飾っていました。

子どもも保護者の皆様も職員も、日替わりの天気予報をみながら、きっと気持ちをやきもきさせていたことでしょう。おそらく、雨予報にニヤニヤしていたのは私とリーダーのもりもっさんだっと思います。

夜中からの雨が嘘のように、現地に向かう車中で雨がやみ、なんと到着した時には晴天でした。



《感動する心など感性を豊かに育むプログラム》

1. 「いのち」をいただきます。

木を切るための道具「のこぎり・なた・チェーンソー」の話聞き、森を生かすための伐採の話をしてもらいました。そして、命を頂く木にあいさつのハグをした後、チェーンソーでの伐採（樹木の生育を促すための間引きです、決してショーではありません）。凄まじいごう音とともに切れ目を入れ、最後は木にかけたロープを全員で引っ張り、子どもたちの力だけで倒しました。高さ 20 メートル、直径 30 cm ほどの樹木（年齢 50 歳くらい）が倒れていく様は圧巻でした。また、倒れる音は今まで聞いたことのない迫力のあるものでした。それから、切り口の匂いを嗅いで「いい匂いやあ」と感動し、木皮も手で簡単にめくれ、表面をさわって「つるつるして気持ちいい」と感触を楽しむことができました。



2. 自然の中で生活することで知恵や創造性を養う

「火とかかわる経験」を取り入れました。羽釜でのご飯炊き、おやつにはマシュマロを焼いて食べていました。火は取り扱いを間違えると大事故につながるなので、そこは慎重に、子

どもたちの反応をみながらすすめました。まずは焼いてみせての実食。「約束通り自分で焼いてね。」とあって挑戦。怖さと熱さで火になかなか近づくことができず上手く焼けません。炎の横ではなく上の方が、火力が強く、上手く焼けるということを学ぶことができました。



3. 生き物の命。子どもの葛藤・大人の葛藤。

自然探索、自然物集めをすると出会うのが小さな生き物たち。この日は大きなカメ、さわがに、カエルを捕まえていました。「自分が見つけた」「自分が捕った」と誇らしげにみせる子ども達。どうしても持って帰って「飼いたい」気持ちが出てきます。大人はどうせ持って帰って飼ってもすぐに死んでしまうから「ここで逃がしてあげなさい」と正論を言ってしまう。

保護者の皆様も子どもの頃を思い出してみてください。小さな生き物を取ったら家で飼いすぐに死なせた経験はありませんか。もしかしたらこの失敗の経験で「いのち」の大切さを学んだのではないのでしょうか。そう考えると子どもの意思決定を尊重することも大事なことではないかと葛藤してしまいました。



4. この経験を通して。

これらの体験は、前回にもお知らせしたとおり、子ども達にとって新たな発見の連続だったと思います。目、耳、鼻、手、足など全身を使って自然と対話し、自らの感性を研ぎ澄ませながら目の前の出来事と向き合い想像力を働かせ遊ぶことができたと思います。自然環境は子どもの好奇心や探求心を育み、「やってみたい」「どうしてなんだろう？」「あっ、そうかぁ！！」といった豊かな心情を育むことができたのではないかと思います。

切った木は今、保育園で乾燥させています。その後どんなものになるのか、また命を頂いた木のことを子どもたちはどう思っていくのか楽しみにしています。



【もりもっさんの経歴】

大阪体育大学大学院修了後、カナダのキャンプ場で2年間働いて帰国し、自然体験や環境教育などを行うNPO法人ナック（大阪市）の職員になり、子どもたちとカヌーキャンプやスキー教室を行って来ました。関西学院大学千刈キャンプ場ディレクター、兵庫県三田市野外活動センター所長を経て、現在はフリーでキャンプを企画し実践を行っています。そして今は能登半島地震の支援のため積極的に活動をされています。



もりもっ たかし
森本 崇資（カヌーの達人）

「カヌーの達人」としてキャンプに参加。
カナディアンカヌーやシーカヤックに乗り込み、一緒にカヌートリップに出航しよう！
余島の海は世界中の海とつながっているんだ！

プロフィール

カナダ・オンタリオ州にあるキャンプ場 "Camp Tawingo" でキャンプやカヌーの素晴らしさと出会い今に至る。
2012年より、余島キャンプ場の達人キャンプやカヌートリップリーダー・トレーニング等に参加。